

未来を拓く研究所



最先端の
新たな技術研究所に
生まれ変わります

大林組では、中期経営計画 '08に掲げる「技術を核として利益成長企業へ」を確実に実現していくため、種々の施策を講じています。

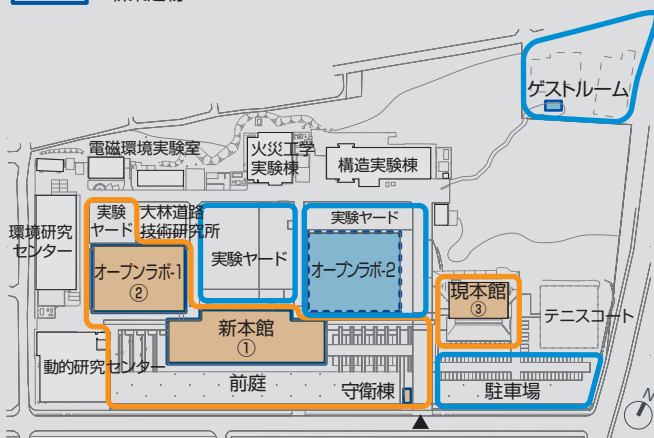
今回、技術開発の最重要拠点としての技術研究所（東京都清瀬市）を整備して、顧客や社会のニーズに合致した技術開発を迅速かつ強力で推進することとしました。

多くの人との交流の中から未来を拓く技術が生まれます。

ぜひ一度お越し頂き、最先端の技術を観て、触れて、感じて下さい。

今回工事
将来計画
新築建物

大林組技術研究所
東京都清瀬市下清戸4-640



技術研究所整備の概要

■ 技術の研究所に求められるコンセプト

「技術の革新」、「技術の実証」、そして「技術のプレゼンテーション」を実践する、開かれたフィールド

■ コンセプト実現のための施設整備の内容

① 研究員が一堂に会し、互いに交流、刺激し合うことのできるワークスペースとしての本館（愛称：テクノステーション）を建設

② 顧客や社会のニーズに柔軟に対処することを可能にするスケルトン・インフィル型の実験施設「オープンラボ」の新設

③ 現在の本館を事務所ビルから化学分析系実験施設にコンバージョン

■ 今回の整備工事期間

2009年10月～2011年6月

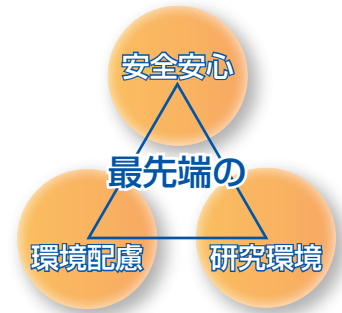
大林組は、技術を核として成長していきます。今回整備する技術研究所を中核施設として、顧客ニーズに合致する技術の開発を行い、社会に貢献し続けていきます。

世界初 スーパーアクティブ制震ビルを建設

大林組は、技術研究所の敷地内に、中核施設として**新本館(テクノステーション)**を建設します。

この新しい本館は**最先端の安全安心**、**最先端の環境配慮**、**最先端の研究環境**の3つのコンセプトをかけた、世界初のスーパーアクティブ制震システムの採用や最高水準の省エネの達成、知的生産性を向上させる吹抜大空間のワークスペースなど、当社が培ってきた技術の結晶として計画しました。

数多くの先端技術を取り入れて誕生する**新本館(テクノステーション)**は、未来に向かう起点であり、新技術を創造する場になります。



新しい本館の概要

構造・規模 S造 地上3階 延床面積5,500m²
 工期 2009年10月～2010年8月(11ヶ月)
 主な採用技術

■ 安全安心

- 世界初のスーパーアクティブ制震システム
- ICタグを利用したセキュリティシステム

■ 環境配慮

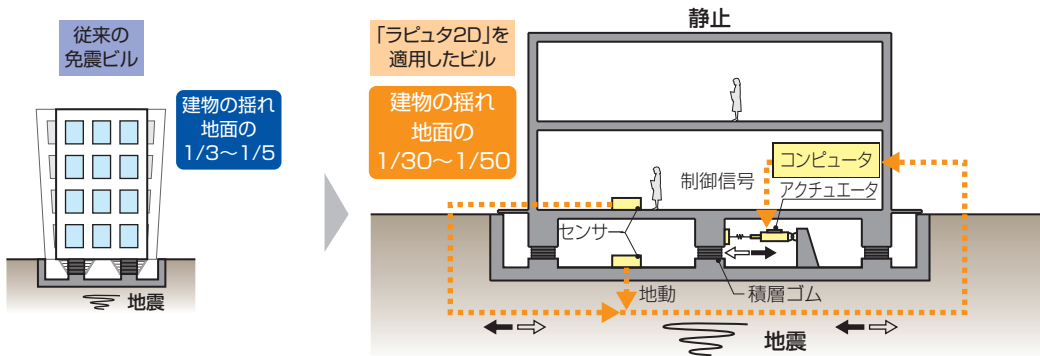
- 快適性と省エネルギーを両立させた建築・設備計画
- 自然エネルギー(太陽光や地中熱など)の積極的な利用
- CO₂ 排出削減率 55%
 省エネルギー 45%、再生可能エネルギー 10%
- 研究施設として日本初のカーボンニュートラルの達成
 45%に相当するカーボンクレジットの購入による
- CASBEE評価Sクラスの取得

■ 研究環境

- 知的生産性を向上する大スパン、吹抜のある空間構成
- 野外テラスなど豊富な交流スペースの確保

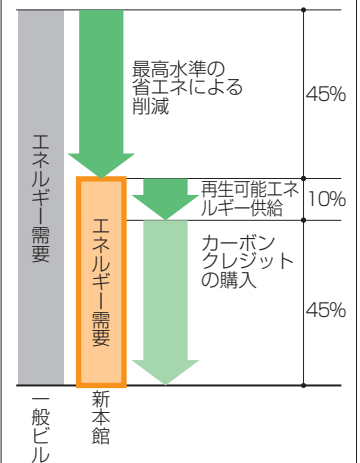


スーパーアクティブ制震システム「ラピュタ2D」(地震の揺れを打ち消す技術)の採用



地震を感知して地面の揺れと逆方向にアクチュエータを動かし、地震の揺れを打ち消して、建物の揺れなくします。

カーボンニュートラルの達成



この資料に関するお問い合わせは

株式会社 大林組

東京本社 技術本部 企画推進室
 〒108-8502 東京都港区港南2-15-2 品川インターシティB棟 TEL 03-5769-1006
<http://www.obayashi.co.jp/>

